

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和7年1月24日号

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

校長 埴岡 靖司

新しい年がスタートしました。今年は、巳年(みどし)と言われることから、「実を結ぶ」年とされています。私は、「実を結ぶ」活動は、学校ではいつも行われていることだと思っています。例えば次のようなことです。

☆いつもの元気のよいあいさつは、毎日どこかが違って
います…実を結ぶ

☆新しい漢字や計算が、いつの間にかできるようになっ
ています…実を結ぶ

☆昨日までできなかった縄跳びの技ができるようになっ
ています…実を結ぶ

「実を結ぶ」は、学校生活では当たり前にあることなので、はっきりと見えないのかもしれませんが、当たり前に行われていることを、お互いに見つけ合える1年にしたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

☆☆

防災のゲームを通して、梅原小学校児童の強い絆を感じました

1月17日は、阪神淡路大震災が起きて、30年になる日でした。ちょうど、市内の小中高の生徒指導の先生方の授業参観がありましたので、「全校での防災学習」を行いました。教材には、「いえまですごろく」という防災ボードゲームを使いました。このゲームは、外出中に地震が起きたあとにわが家をめざすというストーリーです。ゲームの参加者が、手持ちの「救助カード」を出し合いながら、災害に対応していきます。私は、学習を通して「みんなで助け合うことが必要」ということを感じてもらいたいと、ゴールの姿を設定しました。ゲームを行う中で、難しい防災の言葉を、学年の下の子にわかりやすく説明する学年の上の子の姿が、あちらこちらで見られました。この防災ゲームの秀逸な面だと実感しました。

授業後の子どもの感想を、整理したところ、助け合うこと、自分ができるところを行うことという、共助、自助の必要性について、関心が高まっていることがわかりました。

1年生から6年生までの異なる立場の人と接して違いがわかることで、自分のできるところを見つめ直すことができる。梅原小学校の規模での全校学習での価値を感じることができました。



△梅原小学校の朝



△顔をつきあわせて
「いえまですごろく」を楽しむ

1. みんなで助け合うとよいことがわかった
みんなで話し合っ、どうするかを決める、自分にできることを進んでやる等
2. やさしい気持ちをもつとよいことがわかった
人の意見を聞いて、おたがいにゆずり合う、「大丈夫？」と声をかける、みんなで力を合わせて行動する等
3. 困っている人を助けるとよいことがわかった
怪我をしている人がいたら、大人を呼んだり一緒に手伝ったりする、AED(いのちを助ける道具)を使う等
4. 地震にそなえるとよいことがわかった
普段から地震が起きた時にどうすればいいか考えておく等
5. 安全を守るためにすることがわかった。
危険な場所には近づかない等

△学習後のアンケート結果
(整理に生成 AI を活用)